

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4073400473		
法人名	有限会社 寿楽		
事業所名	グループホーム安寿		
所在地	福岡県太宰府市高雄1-3664-256 (電話) 092-921-8780		
自己評価作成日	平成22年4月25日	評価結果確定日	平成22年7月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

私達は、まず利用者の方が安心して暮らせるように努めています。そのために、家庭的な雰囲気の中で安心して暮らせるように環境を整え、基本方針にある、笑顔が絶えないホームを目指して職員は毎日笑顔で絶やす事がないようにし、笑顔でいることで利用者やホーム全体の雰囲気もよく、また職員が利用者一人一人の思いにそった個別支援を行い、その中でみんなと一緒に暮らしているということを感じてもらうように支援しています。行事などの余興は、職員自らが楽しむことで利用者の方にも楽しんでもらっていると思います。毎週月曜日に地域の防犯パトロールに参加して、地域の人達と職員の交流も行っています。職員の定着率もよく、3年以上勤めている職員がたくさんいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成22年5月17日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

国道から少し入った閑静な住宅地の一角に位置している事業所は、玄関前に菜園があり、玄関先のベンチから野菜の生育を眺めながら外気浴が楽しめるよう工夫されている。管理者と職員は常に笑顔で絶やさず、レクリエーションや行事等の企画・実施は、職員自らが率先して楽しみ、利用者と共に生きる喜びを共有している。職員と利用者が共に地域活動や地域行事へ参加し、事業所主催の行事に地域住民の参加がある等、積極的に地域との交流を図りながら、利用者一人ひとりの思いを尊重し、全職員がケアサービスの質の向上に熱意を持って日々取り組んでいる事業所である。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員に覚えてもらい、毎週月曜日の申し送り後に唱和し、理念を共有して実践につなげている。	基本方針に地域密着型の視点が含まれ、理念の一部として実践している。基本方針を玄関ホールに掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事（夏祭り、ベタンク大会など）に参加し、毎週月曜日には防犯パトロールに参加して地域の皆さんと地域をパトロールしている。また、事業所のもちつき大会には地域の方にボランティアで参加してもらっている。	自治会に加入している。週1回、防犯パトロール等の地域活動や夏祭り、ベタンク大会等の地域行事に参加している。また、近隣の保育園と交流がある。事業所主催の餅つき大会には地域住民の参加があり、地域と積極的に交流を図っている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事や防犯パトロールにて地域の方々と交流し、認知症のことなどを話して情報交換などしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度、運営推進会議を行い事業所の状況などを報告し、意見交換を行っている。会議では、地域行事の情報や市役所・包括の方とも情報交換を行っている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、利用者や活動状況、評価への取り組み状況を報告し、委員の意見等を運営や介護の質の向上に活かすよう取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市役所の方に参加していただき、状況などを話し、またわからないことなどは、市役所に行き聞くようにしている。	行政窓口に出向き、担当者へサービスや運営等について日頃から報告・相談し、意見や助言をもらって連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はせず、見守りしながら出入りしたりできるような環境作りに取り組んでいる。	居室及び玄関は施錠していない。職員は利用者の外出傾向を把握し、見守りや付き添いを行っている。運営推進会議を通して近所の人々の理解を得て、声かけや見守りの協力がある。身体拘束に関する内部研修を実施し、協力医療機関の勉強会に参加している。研修記録等がある。	身体拘束のないケアを実践しているが、職員の意識を更に高めるためにもマニュアルの作成に向けて期待したい。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての講義を認知症指導者より行ってもらい、職員の知識の向上に努めた。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年、事業所に来てもらい勉強会をしてほしいと、市のほうにお願いしたが断られ、今後どのようにしたらいいのか考え中です。	一部の職員は、制度について外部研修に参加する機会はある。家族等へは、利用開始時に制度について説明している。	全職員が内部または外部研修へ参加の機会を持ち、制度に関する研修を実施してほしい。また、研修記録を残し、資料等は職員がいつでも確認出来るように事業所で保管してほしい。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分に説明を行い、その後不安な点や疑問に思ったことがある場合にはその都度説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者の方や家族の方にも参加してもらい、その中で意見がないか聞くようにしている。	利用者・家族等は、運営推進会議に出席し、意見等を表出する機会がある。また、年3回の家族会や家族来訪時等、管理者・職員は、積極的に家族等から思いや希望等を聴取するよう努めている。また、事業所以外の苦情に関する第三者相談窓口を説明している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員からの意見を聞くようにし、ケアに生かしていけるように心がけている。	職員は、毎日の申し送り時や月2回のカンファレンス時に意見等を表出する機会があり、職員の意見で支援内容を見直す等、運営に反映している。また、管理者は職員が話しやすい雰囲気づくりを心がけ、悩み等あるようであれば声かけし、話を聴くよう努めている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績から年2回の賞与に査定反映させ、個々に代表者より話をするようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集や採用にあたっては、年齢や経験、性別に関係なく行っている。本人のやる気や理念への共感、チームワークへの姿勢を重視している。前職の経験や趣味、知識を活用して生き生きと勤務し、資格取得や自己実現に向けて、勤務を調整している。	職員の募集・採用において、性別や年齢等を理由に採用対象から除外しないようにしている。また、配置・昇進・教育等においても、誰でも差別無く安心して働けるよう環境作りに配慮している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修に行ってもらい、研修を通して、職員には人権教育などの勉強会を行うようにしている。人権教育なども内部研修で行いたい、市のほうに断られ、今後どうしていくか考え中です。	人権教育について、一部の職員が外部研修に参加し、他の職員へ伝達研修を行っている。研修記録・報告書等がある。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月2回のカンファレンスを行い、外部の研修にも積極的に参加してもらうようにしている。また、認知症指導者にカンファレンスで講義や演習をしてもらうようにもしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加してもらい、同業者と交流する機会を作ってネットワーク作りやそれぞれの事業所に見学に行かせてもらい、情報交換などを行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式を使用し、本人が困っていること不安なことを本人より引き出し、ケアに活かしていている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス計画書を家族に説明する際に要望などを聞くようにしている。また、相談などはいつでも聞けるように配慮し、入所される際には十分にこれまでの経緯について、ゆっくり聞くようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態や家族が必要とすることを傾聴するようにし、サービスに活かしていくようにしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に掃除をしたり、料理の下ごしらえなどをしたりして、お互いが協働しながら和やかな生活ができるように場面作りや声かけをしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、その月の様子を家族の方に文書にして送り、情報の共有に努め、本人と一緒に支えるために家族と同じような思いで支援していることを伝えている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで大切にしてきた物は持ってきてもらい、これまでの馴染みの関係がある方には、関係を継続していけるようにこちらから働きかけている。	管理者及び職員は、利用者の馴染みの人や場所を把握している。利用者に地域活動への参加を勧め、知人に事業所へ訪問してもらう等、これまでの関係が途切れないよう支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで楽しく過ごせる時間や気の合うもの同士で過ごせる場面づくりするなど、利用者同士の関係がうまくいくように、職員が間に入り支援するようにしている。また、一人になりたい利用者の方がいる時も見守りしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所することになっても、これまでの関係性を大切に、家族の方には相談や連絡できる関係に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のかかわりの中で声かけを行い、把握に努めている。言葉や表情などからも、読み取ろうと努め、困難な場合はカンファレンスで取り上げ検討するようにしている。	職員は、利用者一人ひとりの希望や意向を、利用者の言葉や表情、行動等から把握するよう努めている。意思疎通が困難な場合は、家族から聴取した生活歴等を参考にし、本人本位に検討している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所された際に、家族の方や本人にこれまでの生活歴や生活環境、馴染みの暮らし方を聞きだし把握するようにしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方、状態を記録に残し、生活リズムを理解し、職員全員が把握するように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年に1度モニタリングを行い、職員全員で意見交換を行い、また家族の方や本人にも思いや意見を聞き、反映させるようにしている。	介護計画は、本人及び家族の意向や希望を尊重し、全職員の意見や気づきも含めて作成している。また、6ヶ月に1回、また利用者の状態変化に応じて見直している。作成後は家族へ説明し、押印をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子や状態、職員の気づきを個々のケア記録に記載し、職員間で情報を共有するように徹底している。また、個別記録をもとに介護計画を見直し、評価を実施している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況の変化に対応するために、カンファレンスで取り上げ、職員全員で意見交換して、本人や家族と話し合い、それをサービスにつなげていくようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	センター方式で家族や本人から聞きだすことで、地域資源を把握し、安全で楽しい暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所される以前のかかりつけ医の病院となっているが、事業所の協力医での医療が受けられるようにし、基本的には職員が代行して通院介助行っている。家族が希望した際には一緒に受診し、診察結果や主治医からの指示も家族に報告している。	利用開始前の利用者一人ひとりの受診経過や希望を把握している。希望する医療機関での受診だけでなく、事業所の協力医療機関での受診も確保し、利用者及び家族が選択できるようにしている。受診時の情報伝達方法について家族と合意し、電話や文書で報告している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の利用者の状態を看護師に報告、相談し、適切な受診や看護を受けられるようにしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際には、情報を医療機関に報告し、病院に頻りに職員が行くようにし着替えの洗濯などを事業所で行い、その際に病院関係者に状態などを伺うようにし、早期の退院ができるようにアプローチしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まず、契約時に終末期のことについて話し合い、その後、状況が変化していき重度化していくにつれて家族への思いなど話し合いを行うように取り組んでいる。	重度化や終末期のあり方について事業所の方針があり、折に触れて家族へ説明している。状況変化時には、本人、家族、主治医、全職員で話し合っ方針を共有し、支援している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、全ての職員に読んでもらっているが、訓練などは行っていない。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、2回の防災訓練・避難訓練を行い、そのうち1回は消防署の方に来所していたり、指導してもらうようにしている。	マニュアルを作成し、年2回、消防署の協力を得て、避難訓練を実施している。非常用食料・飲料水・備品を準備している。	避難訓練を実施する際は、運営推進会議を通じて地域住民へ参加協力を呼びかけたり、災害時対策に関する理解を求め、協力体制を築いてほしい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	カンファレンスで、職員の意識向上を図るとともに、日々の関わり方を考えてもらい、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の仕方を徹底してもらっている。	職員は、利用者のプライバシーに配慮した声かけや対応に努めている。内部研修で個人の尊厳やプライバシーの保護について話し合い、周知徹底している。研修記録等がある。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声を掛け、職員側で決めたことを押しつけることはせず、思いや希望をじっくり聞くようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決まっているが、時間の区切り方はせず、一人ひとりの体調に配慮しながら、買い物や散歩など、その日、その時の本人の気持ちを尊重して支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは、本人の意向で決めながら職員は見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。しかし、自己決定ができない利用者の方には職員と一緒に手伝うようにしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしの根とりや皮むきなど下ごしらえを一緒にしており、また片付けも共に行っている。なかなか食べれない人でも、その方に合わせ、できるだけ自分のペースで食べてもらっている。	職員と利用者は、一緒に準備や片付けをしている。職員は、利用者と一緒に楽しく会話しながら見守り及び介助をしている。献立は、事業所の菜園で育てた野菜や果物を利用し、また誕生会は利用者本人の希望を考慮する等、食事が楽しみなものになるよう工夫している。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お粥や刻み食など、利用者の方の状態にあった食事をしている。水分補給も適度の時間にできるようにしている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎月1度、訪問歯科より利用者の方全員の口腔ケアを行ってもらい、また職員にもその方その方で磨き方の指導もしてもらっている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や習慣を把握するようにし、トイレ誘導をすることでトイレでの排泄を促すようにしている。	利用者一人ひとりのサインを把握し、さりげなく支援している。排泄チェック表を作成し、おむつやパットの利用が改善する等、常に排泄の自立を意識したケアを心がけている。本人の自尊心を傷つけないよう声かけ等に配慮している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の補給や体を動かす事によって、便秘改善に努め、主治医にも相談し、それぞれに応じた便秘予防に取り組んでいる。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴日は決まっているが、その方の体調や希望に合わせて入浴するか決めている。また、入られない時は足浴などしてリラックスしてもらえるように促している。また、希望があった場足もは仲の良い利用者の方が一緒に入られる事もある。	大まかな入浴時間の設定はあるが、利用者の希望等に合わせて柔軟に支援している。入浴拒否の人については、時間をずらしたり言葉かけを工夫する等し、入浴が楽しめるよう支援している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。また、本人の体調や表情、希望に考慮して、ゆっくり休息できるように支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や用量が変更されたりした時は、記録し、申し送りをすることにより職員全員に把握してもらい、服薬時には職員同士で確認を行い、本人に手渡し、きちんと服薬できているかの確認を行うようにしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	合唱や畑仕事、庭いじりなど一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、お願いしてもらえらるようなことを頼み、感謝の言葉などを伝えるようにしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、本人の気分や希望に応じて、季節を肌で感じてもらい、心身の活性につながるように日常的に散歩に行っている。また、天気がいい日はドライブに行ったり、買い物の日を作り、希望された方は買い物に行っている。	日常的な散歩や買い物、ドライブだけでなく、弁当持参による季節の花見等をし、戸外に出かけられるよう支援している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て少額のお金を持っている人もいる。家族よりお金を預かり、事業所が管理している人でも、買い物の日はその中で買い物してもらい職員が支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が家族の方と話せるように家族の方と連携をとり、本人の希望にそって電話できる環境を作るようにしている。また、知人に手紙を書いている方や職員の支援で家族に手紙を書いている方もいる。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や玄関に季節の花を飾ったり、廊下には外出した時の写真を飾ったり、障害物がないように心がけ、利用者の方が安心して暮らしていけるように心がけている。	共用の空間は、ソファや畳のスペース等を配置し、利用者・職員が作成した絵や飾りで彩り、季節感あふれ、居心地よく過ごせるよう工夫している。光の強さ等はカーテンで調節し、音の大きさにも配慮している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に大きなソファを2つ置いて、気の合う利用者の方向士でくつろげるスペースを作っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や使い慣れた日用品、馴染みの物を持ってきてもらい、部屋に置いて、利用者の方の居心地のよさに配慮している。事業所で撮った写真もアルバムにして部屋に置いてもらっている。	居室は、利用者の使い慣れた小筆筒、テレビ、冷蔵庫、ソファ、仏壇等を持ち込み、思い出の品や写真、人形等を飾り、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、廊下、トイレなどに手すりを持って、できるだけ本人が自立して歩いてもらえるようにして、職員が見守り支援している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員に覚えてもらい、毎週月曜日の申し送り後に唱和し、理念を共有して実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事（夏祭り、ベタンク大会など）に参加し、毎週月曜日には防犯パトロールに参加して地域の皆さんと地域をパトロールしている。また、事業所のもちつき大会には地域の方にボランティアで参加してもらっている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事や防犯パトロールにて地域の方々と交流し、認知症のことなどを話して情報交換などしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度、運営推進会議を行い事業所の状況などを報告し、意見交換を行っている。会議では、地域行事の情報や市役所・包括の方とも情報交換を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市役所の方に参加していただき、状況などを話し、またわからないことなどは、市役所に行き聞くようにしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はせず、見守りしながら出たり入ったりできるような環境作りに取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての講義を認知症指導者より行ってもらい、職員の知識の向上に努めた。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年、事業所に来てもらい勉強会をしてほしいと、市のほうにお願いしたが断られ、今後どのようにしたらいいのか考え中です。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分に説明を行い、その後不安な点や疑問に思ったことがある場合にはその都度説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者の方や家族の方にも参加してもらい、その中で意見がないか聞くようにしている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員からの意見を聞くようにし、ケアに生かしていけるように心がけている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績から年2回の賞与に査定反映させ、個々に代表者より話をするようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集や採用にあたっては、年齢や経験、性別に関係なく行っている。本人のやる気や理念への共感、チームワークへの姿勢を重視している。前職の経験や趣味、知識を活用して生き生きと勤務し、資格取得や自己実現に向けて、勤務を調整している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修に行ってもらい、研修を通して、職員には人権教育などの勉強会を行うようにしている。人権教育なども内部研修で行いたいが、市のほうに断られ、今後どうしていくか考え中です。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月2回のカンファレンスを行い、外部の研修にも積極的に参加してもらうようにしている。また、認知症指導者にカンファレンスで講義や演習をってもらうようにもしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加してもらい、同業者と交流する機会を作ってネットワーク作りやそれぞれの事業所に見学に行かせてもらい、情報交換などを行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式を使用し、本人が困っていること不安なことを本人より引き出し、ケアに活かして行っている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス計画書を家族に説明する際に要望などを聞くようにしている。また、相談などはいつでも聞けるように配慮し、入所される際には十分にこれまでの経緯について、ゆっくり聞くようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態や家族が必要とすることを傾聴するようにし、サービスに活かしていくようにしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に掃除をしたり、料理の下ごしらえなどをしたりして、お互いが協働しながら和やかな生活ができるように場面作りや声かけをしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、その月の様子を家族の方に文書にして送り、情報の共有に努め、本人と一緒に支えるために家族と同じような思いで支援していることを伝えている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで大切にしてきた物は持ってきてもらい、これまでの馴染みの関係がある方には、関係を継続していけるようにこちらから働きかけている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで楽しく過ごせる時間や気の合うもの同士で過ごせる場面づくりするなど、利用者同士の関係がうまくいくように、職員が間に入り支援するようにしている。また、一人になりたい利用者の方がいる時も見守りしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所することになっても、これまでの関係性を大切に、家族の方には相談や連絡できる関係に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のかかわりの中で声かけを行い、把握に努めている。言葉や表情などからも、読み取ろうと努め、困難な場合はカンファレンスで取り上げ検討するようにしている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所された際に、家族の方や本人にこれまでの生活歴や生活環境、馴染みの暮らし方を聞きだし把握するようにしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方、状態を記録に残し、生活リズムを理解し、職員全員が把握するように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年に1度モニタリングを行い、職員全員で意見交換を行い、また家族の方や本人にも思いや意見を聞き、反映させるようにしている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子や状態、職員の気づきを個々のケア記録に記載し、職員間で情報を共有するように徹底している。また、個別記録をもとに介護計画を見直し、評価を実施している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況の変化に対応するために、カンファレンスで取り上げ、職員全員で意見交換して、本人や家族と話し合い、それをサービスにつなげていくようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	センター方式で家族や本人から聞きだすことで、地域資源を把握し、安全で楽しい暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所される以前のかかりつけ医の病院となっているが、事業所の協力医での医療が受けられるようにし、基本的には職員が代行して通院介助を行っている。家族が希望した際には一緒に受診し、診察結果や主治医からの指示も家族に報告している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の利用者の状態を看護師の報告、相談し、適切な受診や看護を受けられるようにしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際には、情報を医療機関に報告し、病院に頻繁に職員が行くようにし着替えの洗濯などを事業所で行い、その際に病院関係者とは状態などを伺うようにし、早期の退院ができるようにアプローチしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まず、契約時に終末期のことについて話し合い、その後、状況が変化していき重度化していくにつれて家族思いなど話し合いを行うように取り組んでいる。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、全ての職員に読んでもらっているが、訓練などは行っていない。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、2回の防災訓練・避難訓練を行い、そのうち1回は消防署の方に来所していたり、指導してもらっている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	カンファレンスで、職員の意識向上を図るとともに、日々の関わり方を考えてもらい、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の仕方を徹底してもらっている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の合わせて声を掛け、職員側で決めたことを押しつけることはせず、思いや希望をじっくり聞くようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決まっているが、時間の区切り方はせず、一人ひとりの体調に配慮しながら、買い物や散歩など、その日、その時の本人の気持ちを尊重して支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは、本人の意向で決めながら職員は見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。しかし、自己決定ができない利用者の方には職員と一緒に手伝うようにしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしの根とりや皮むきなど下ごしらえを一緒にしており、また片付けも共に行っている。なかなか食べれない人でも、その方に合わせ、できるだけ自分のペースで食べてもらっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お粥や刻み食など、利用者の方の状態にあった食事をしている。水分補給も適度の時間にできるようにしている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎月1度、訪問歯科より利用者の方全員の口腔ケアを行ってもらい、また職員にもその方その方で磨き方の指導もしてもらっている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や習慣を把握するようにし、トイレ誘導をすることでトイレでの排泄を促すようにしている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の補給や体を動かす事によって、便秘改善に努め、主治医にも相談し、それぞれに応じた便秘予防に取り組んでいる。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴日は決まっているが、その方の体調や希望に合わせて入浴するか決めている。また、入られない時は足浴などしてリラックスしてもらえるように促している。また、希望があった場足もは仲の良い利用者の方が一緒に入られる事もある。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。また、本人の体調や表情、希望に考慮して、ゆっくり休息できるように支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や用量が変更されたりした時は、記録し、申し送りをすることにより職員全員に把握してもらい、服薬時には職員同士で確認を行い、本人に手渡し、きちんと服薬できているかの確認を行うようにしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	合唱や畑仕事、庭いじりなど一人ひとりの力を発揮してもらえよう、お願いしてもらえようなことを頼み、感謝の言葉などを伝えるようにしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、本人の気分や希望に応じて、季節を肌で感じてもらい、心身の活性につながるように日常的に散歩に行っている。また、天気がいい日はドライブに行ったり、買い物の日を作り、希望された方は買い物に行っている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て少額のお金を持っている人もいる。家族よりお金を預かり、事業所が管理している人でも、買い物の日はその中で買い物してもらい職員が支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が家族の方と話せるように家族の方と連携をとり、本人の希望にそって電話できる環境を作るようにしている。また、知人に手紙を書いている方や職員の支援で家族に手紙を書いている方もいる。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や玄関に季節の花を飾ったり、廊下には外出した時の写真を飾ったり、障害物がないように心がけ、利用者の方が安心して暮らしていけるように心がけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に大きなソファを2つ置いて、気の合う利用者の方向士でくつろげるスペースを作っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や使い慣れた日用品、馴染みの物を持ってきてもらい、部屋に置いて、利用者の方の居心地のよさに配慮している。事業所で撮った写真もアルバムにして部屋に置いてもらっている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、廊下、トイレなどに手すりを持って、できるだけ本人が自立して歩いてもらえるようにして、職員が見守り支援している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない